

## 中野市介護保険事業運営協議会 会議録

### 1 日 時

令和元年7月19日（金） 午後1時30分から

### 2 場 所

市役所 会議室 51

### 3 出席者

#### 【委員】（敬称略）

丸谷和洋（会長）、高橋一美（副会長）、小林 強、南 修、大塚直美、松島治恵、渋谷昌記、江口 明、関 純子、浅野茂子、丸山扶美、工藤二六子、田村安則、齋藤文子、宮澤章仁、田中道代（計16名）

#### 【事務局】

太田健康福祉部長、吉村高齢者支援課長、鈴木高齢者支援課長補佐兼介護保険係長、児玉介護予防包括支援係長、小林長寿福祉係長、傳田主任主事（計6名）

### 4 欠席者

#### 【委員】（敬称略）

杉浦宏子（計1名）

### 5 内 容

(1) 開会（高橋副会長） （午後1時34分）

(2) あいさつ（丸谷会長）

(3) 中野市老人福祉計画・介護保険事業計画における平成30年度実績について  
【事務局説明】

（委員）

（資料1の）10ページの新規事業について聞かせていただきたいが、「地域支え合い支援者養成者数」、それと12ページの「介護支援ボランティアポイント登録者数」というところがあって、これが今期60人となっていて、今までなかった新しい事業かと思うが、どんな感じなのか教えてほしい。

（事務局）

始めに、10 ページの「地域支え合い支援者養成者数」、(実績が) 0 人だが、今なっちょ隊” (だい) で地域住民の方と中野の問題点などを出している。そこで方向性を決めて、支援者を養成していければと考えている。

12 ページの「介護支援ボランティアポイント登録者数」だが、これは来年度から実施予定になっている。ボランティアをやってくださる方が各高齢者施設に行っていて、ポイントを貯めていただいて、そのポイントを還元するという形で実施する予定になっている。

(委員)

聞くところによると、例えば高丘地区では、子ども食堂で参加者が毎月 70 人から 80 人ぐらいあって、高齢者のみに限らず、広い幅で社会参加の場として機能させていただいているかと思うので、できれば個々という事業ではなくて、上手く連動していければいいのではないかと思う。

それと、一番は高齢者の場合、足がないというところがすごくあって、実はなっちょ隊” (だい) 等の活動で、オレンジカフェに代わるような活動の中野市はすごく至る所でやっただけで、実際そこに行く足がないがために、参加できないという方がいるので、例えばデマンドバス等を上手く利用していただいて、そういった行きたいという希望のある方のニーズを実現できるような施策に結び付けていただければありがたいなと思う。

(委員)

県の(老人クラブ連合会の) 会長と事務局長をお招きして、昨日正副会長会議を開いたところだが、今の内容に付随して、単独で参加するといろんな事業が今実施されていて、団体行動が苦手になってきている中で、老人クラブの会員が減ってきているが、どういう魅力を与えたら参加者が増えるかという話も出たり、買い物についても、町部の人達がいいが、村部の人達は足がなくて、買い物だけじゃなくて出にくくなっている環境をどうしたらいいか、そんな話もたまにまたしたところだ。山ノ内とか長野の中条は、月に1回とかバスを仕立てて街へ買い物に出かける企画をされているというのを聞いた。中野ではどのようにしたらいいかという結論は出なかったが、ここでも取り上げていただいて、皆さんの知恵を教えていただければ、会に戻って反映させたいかなと思っている。(タクシーの) 無料券をいただいているが、家に籠るだけじゃなくて、出かけたくても出られない環境、私自身も免許を返したら、なかなか出たい所にも出られないという不便さを実感していて、会員の人達の気持ちも十分わかる。そんな中で、どんなようにしたらメリットとして皆さんが喜ばれるかなという話もした。

お店等の割引券等を多く作っていただいて、それから市の補助をもう少し上げていただいて、上手く高齢者の生きがいに続くような企画を市とタイアップしながら計画できればいいかなって、そんな話まで発展させた。なかなか地域差がある中で、一長一短で結論は出なかったが、いい機会なので、市の立場でもそんなようなものを足並み揃えながら、共通する問題として共に語り合って、実現に向けるような方向でお願いできればと思う。カードみたいな物を作ってポイントで安くいっぱい買えるような方法なんかもいいし、いろんな問題が出たが、実際問題として、やはり足がないというのが一番の問題。それとお店も段々街から離れて大型店が出て、買い物に行きたくても行けない、配達を一部してもらおう所もあるけれども、目で確かめて買い物したいとか、そういう人達の希望を叶えるにはどうしたらいいかという問題も出てくるので、タイアップしながらできる問題は話し合って、少しでも歩み寄れる問題として検討していただければと考えている。

(事務局)

なっちょ隊” (だい) の中でも、足の問題というところは話題になっている。市としても政策情報課でふれあいバスや時刻表の改正、色々な教室へ行くのにもケアマネさんに一緒に乗っていただいて、実際乗ってみてどうなのだろうということの検証などもしているところである。すぐにはこうという解決策は出ないが、今回いただいたご意見を基に、なっちょ隊” (だい) や市の施策に反映させていきたいと思う。

(4) 居宅介護支援事業所の新規指定について

【事務局説明】

(意見等なし)

(5) 中野市介護予防支援（介護予防ケアマネジメント）業務委託について

【事務局説明】

(意見等なし)

(6) 地域密着型サービス事業者の公募について

【事務局説明】

(意見等なし)

(7) 中野市地域密着型サービス事業者選考委員会委員の選出について

【事務局説明】

(意見等なし)

(8) その他

(事務局)

委員の皆さんの任期について、今年の12月20日で満了となる。10月頃に各団体に次の委員さんの推薦をお願いさせていただきたいため、御協力をお願いしたい。

(事務局)

地域密着型サービス事業者選考委員会に関し、今後選考委員会において事務局で作成した募集要領について承認いただき、事業者から応募があった場合は、書類審査、現地調査、プレゼンテーションを受けての選考をお願いしたいと考えている。

なお、1回目の会議については、7月31日の午後1時30分から会議を開催させていただきたい。開催にあたっては、書面で通知させていただく。

(委員)

(資料1の10ページの)地域支え合い支援者について、なっちょ隊”(だい)で数回話し合いを行ってということだが、なっちょ隊”(だい)の説明は去年少し別の会議でお聞きしたが、20人程いらっしゃるようだったが、少しスピードが遅いかなど。(平成29年度と30年度の)実績が0、0と来て2年度に60人。話し合いの回数、違うこともあるのでしょうか、もう少し早めに行った方がいいのではないかなと思う。

同じ資料(資料1)の14ページの高齢者祝賀事業の中で、金婚式の出席者数が29年度、30年度と減っていて、目標は70(組)と書いてあるが、この減っていく理由がよくわからなくて、高齢者が増えている割にはこういうのは減っていく。また、これは何十年も続いていることかと思うが、支援ということであれば、わずかな30組に市の支援、お金も含めて、少し限定というか、少ない方に支援が(されている)。病気とかで出て行かれない方もいると思う。平等とまではいかないが、減っていく理由とそれに関して見直しというか、これから高齢者の人数はどんどん増えていく、お祝い品の贈呈対象者もどんどん増えていくと思うので、この辺の見直しがもうちょっと必要かなと思う。

長野市の知り合いから聞いた話だと、祝賀会ではなくて、写真の撮影券、75(歳)以上の方に写真を撮る券をお渡しするというようなことで、そんなことも色々考えている市町村もあるので、長く続いていることで意味があることだとは思いますが、そろそろ何か少し、人数が減っていくということがちょっとどういう理由かわからないが、見直しはどうかかなと感じた。

(事務局)

合同金婚式については、ご質問のとおり年々参加者が減っている。対

象者なんだと声がかかるが、やはりどちらかが具合が悪くなったり、あるいは参加したくないという意思表示があつて、年々減ってきてしまっているかなと思う。

今年度からは、合同金婚式のスタイルをだいぶ変えさせていただいて、今年度はこの庁舎を使って、新しい庁舎を見ていただきながらということで、スタイルを変えようかなと思っている。そこで公費の負担についても若干減らさせていただいて、不平等性をなくしていこうというところは考えさせていただいている。

高齢者のお祝品についてもだが、99歳以上の方は、毎年もらっちゃ申し訳ないやというお話もあつて、今年度からは100歳の方と最高齢者に変えさせていただいて、100歳以上の方は最高齢者のみという形にさせていただこうと考えている。

#### (事務局)

先程のボランティアの養成やなっちょ隊”（だい）について、高齢化社会になって支え手が少なくなっていく人口構造になってきていて、中野だけではなく日本中そういう状況になっていく中で、どうやったら支え合いの地域づくり、どういった中野市を作っていくかということを含んで考えていこうと。市がトップダウンでやるのではなくて、住民のみなさんと一緒に考えていくというところで、このなっちょ隊”（だい）が始まって、今動き始めている。それぞれの団体の方と協力しなければ市だけではできないというところで、そんな中から少しずつ声を拾い上げながら、最終的にはこういったボランティアの方の養成がしっかりできていけることを目標としているが、遅いというご指摘をいただいてそのとおりに思うが、できるところから、皆さんの共通認識のもとに、ボランティアや支え合いの地域づくりをしていきたいと思っている。

#### (委員)

先程の話に付随して、お祝の件だが、私も7、8年前に金婚式を祝っていた。当時は主人も元気だったので喜んで参加させていただいたが、会場は庁舎じゃなくて、アップルシティをお借りして開いていただいて、当時のお祝いにいただいたカップ、今は、亡くなった主人のお水をあげる、仏壇のところ。私は毎日使わせていただいて本当に感謝している。当時は参加する方の中には、遠くて足がないから来たくても来られないという方と、ちょっと金額が高いから行かないわという声を聞いた記憶がある。車で来ると飲めなくなるしという声も聞いて。今年の企画を見ましたら、こちらの庁舎で安い金額で全く違った内容で企画されているのを見まして、そういう流れの中で声を聞いて変更されたのかなと思っていた。写真は、私も記念にその日帰るときに写真屋に直行して、これからの人生そんなに顔形変わらないから、ついでに写真を撮

ろうと。結構高い。全員で撮っていただいた写真は記念に飾って眺めている。予算的なこともあったりするし、色々な考えの方もいて、地域差もある中で一つに絞るということはとても大変だと思う。今年は少ない予算で企画されて大勢参加できればいいなと思っていたら、その割に増えている訳ではなかったの、どうしてかなと感じていた。市役所の中ではまたそれぞれの事情を汲んで、色々ご苦労されて企画されているということが感じたので、私は違う形で応援したい。参加者の件については、具体的には一人ひとりの声は聞くわけにはいかない。だからその年によって若干違うかなと思う。遠くの人で来たくても来られない、足の問題が一番あるんじゃないかと思う。それをどうしたらいいかという問題だと思う。自分で参加した記憶と企画に当たっての市のご苦労を若干肌で感じたので述べさせていただいた。

(事務局)

色んな市町村の話も聞きながら、今後反映できたらと思う。

(委員)

先日の報道などで、死因の3番目に老衰というのが入ってきて、ケアマネをやっていてターミナルケア、いわゆるガン末期のケアについてはプランニングできるが、老衰の状況というのはなかなか立てにくい。(資料1の)5ページの居宅サービスの実績を見ていただくとわかるが、訪問介護や訪問看護、それから居宅療養管理指導、これは薬剤師さんが頑張っていたいてこういう数字になっているかと思うが、それと短期入所療養介護、それから生活介護といったところが、そこら辺を支えるサービスになるが、病院さんの方で地域包括ケア病棟というのが、北信圏域でもかなり増えてきている中で、ショートステイに代わる存在としてその地域包括ケア病棟というのが注目されてくるのだろうなと思っている。だが、ケアマネ的にはその地域包括ケア病棟の使い方がいまいち、病院さんによって説明が違ったりするので、わからないというところがある。医療との連携というところでは、そこら辺の連携の仕方について、北信圏域あるいは中野市の方で考えて、共有する情報として持てればよいと思う。

(事務局)

先程の連携ルールの策定を機に、医療と介護の連携の会議を定期的に、北信保健福祉事務所で音頭を取っていただいて6市町村が寄る機会を何回か持たせていただいているので、その中で情報提供や検討材料とさせていただきます。

(9) 閉会 (副会長) (午後2時25分)